



2009年  
秋季号

金沢脳神経外科病院だより

ふれあい

日本医療機能評価機構認定病院  
医療法人社団 浅ノ川  
金沢脳神経外科病院 広報誌  
**第36号**  
発行所/メディア広報室  
石川県石川郡野々市町郷町262-2  
TEL 076-246-5600  
FAX 076-246-3914  
http://www.nouge.net

病院理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様により高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

基本方針

- 1 患者の皆様のご権利と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。
- 2 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
- 3 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
- 4 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
- 5 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
- 6 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

患者の皆様のご権利

私達は患者の皆様のご権利を尊重し、信頼に基づいた医療を行うため、患者の皆様のご権利に関する宣言を掲げます。

- 1 適切で最善の医療を公平に受ける権利
- 2 検査や治療について真実を知り、十分な説明を受ける権利
- 3 検査や治療を受ける権利と受けることを拒否する権利
- 4 プライバシーの秘密保持を得る権利
- 5 病院や医師を自由に選択し、あるいは変更する権利

病院長

新築移転後

1年が経過して

病院長 佐藤 秀次



新築移転に伴い、本院は診療機能を四分化しました。

- (1) 脳卒中の急性期治療
- (2) 脊椎・脊髄疾患に対する外科治療
- (3) 回復期リハビリテーション
- (4) 医療依存度の高い脳機能障害者に対する療養介護

の四つです。(1)から(3)までは、地域センター病院としての機能を果たすことを目的としております。そのため、高精度MRIを二台装備し、SCU(脳卒中ケアユニット)を6床から9床、回復期リハビリ病床を54床から106床に増床しました。移転して丁度1年が経ちましたので、移転前後1年間の診療実

績を比較致しました。その結果、新患総数は旧病院と新病院では、それぞれ5190人と5543人で68%増、新入院患者数は1263人から1345人で6.5%増、救急車受け入れ件数は547件から651件で19%増、手術件数は478件から485件で1.5%増。また、一般病棟(平均在院日数・13日)と回復期リハビリ病棟の稼働率は90%以上を維持しており、療養病棟は満床で推移しています。これらの数値から見ると、新病院はこの二年間、地域医療に今まで以上の貢献ができたと思っております。現在、脳卒中の医療連携の要とも見られる脳卒中地域連携パスの準備が進められ、本院はその重責の一端を担わせていただいております。その完成に向けてさらに鋭意努力してまいりますので、地域の皆様のご協力を引き続きお願い申し上げます。



### 登録医療機関紹介コーナー



院長  
ソマ マリコ  
蘇馬 真理子先生

#### 経歴

昭和61年 金沢大学医学部卒業  
平成2年 金沢大学医学部大学院修了  
金沢大学医学部附属病院  
厚生連高岡病院  
公立石川松任中央病院  
石川県立中央病院  
金沢市立病院  
平成20年12月 福留クリニック開院

#### 認定・所属学会

日本脳神経外科学会認定 脳神経外科専門医  
脊髄外科学会会員  
リハビリテーション医学会会員  
日本脳卒中外科学会会員



## 福留クリニック

気軽に立ち寄れる「陽だまり」のようなクリニックを目指して

今回、ご紹介する医療機関は、当院から車で約15分の福留クリニックです。

福留クリニックは、昨年12月、白山市福留町に開院されました。当院前の国道8号線を小松方面に進み、浅野太鼓楽器店の水澄町交差点を左折するとすぐに左手に見えてきます。クリニックは、白とオレンジを基調とした作りとなっており、待合室に座っているとまるで、陽だまり「のような暖かな雰囲気」に包まれます。待合室では、患者さんが「この先生、ほんといい先生ですよ。」と話しかけてくださいました。

院長の蘇馬先生は、金沢大学医学部を卒業後、大学院を修了され、金沢大学医学部附属病院、厚生連高岡病院、公立松任石川中央病院、石川県立中央病院、金沢市立病院など、長きにわたり急性期治療の第一線で病気になられた方に診療をされてこられました。そして、病気にならないように(予防)、病気になられた方が健やかな生活を送れるように(再

発予防、機能維持・向上)との思いから「地域のかかりつけ医として、安心をとどけてゆきたい」と開院されました。

蘇馬先生は、脳神経外科専門医であることから、特に「頭・頸・腰の病気やけが、生活習慣病の診療に力を入れておられます。また、地域で生活される方へのリハビリの必要性について「病院のリハビリが終了された方でも、病院のようなリハビリはできませんが、マッサージなどをするこにより動きやすくなり、何もしない患者さん」と比べると、機能や意欲の維持につながるんです。」と言われ、クリニックにウォーターマッサージ機などを設置し、来院される患者さんに提供しています。クリニックで働く職員には、「何かをしてもらうより、何かをしてあげるとの方が喜びが大きい。患者さんには何かしてあげて、その結果笑顔をみることが出来る。それをみて自分たちも幸福になりましょう。」と伝えているとのこと。

待合室でお会いした患者さんの笑顔がクリニックの姿勢を物語っているように感じました。

今回の取材を通して、「頭・頸・腰の病気になっても安心して生活できる地域づくり」を目指し、急性期および回復期を担う当院と予防・維持期を担う蘇馬先生との連携をさらに深めて行きたいと思えました。



〒924-1005  
石川県白山市福留町179-1

○電話番号○  
076-1277-1313



# 就任にあたって

事務局長 向 幸男



この度、10月1日から谷事務局長の後任を拝命致しました。前任の谷事務局長は、その在任8年半余り、様々な改革を行い、当医療法人社団の浅ノ川総合病院事務局長へ就任の運びとなりました。それに伴い、後任という、あまりの大役に身の引き締まる思いです。病院の舵取り役という意味では、まだ右も左も分りませんが、精一杯勤めさせて頂きますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

当院に勤務し今年で28年が経ちました。「病気やケガで苦しみ悩んでいる多くの方々の何か少しでもお役に立てれば」との思いでこの世界に入り、リハビリテーション部や、放射線部に在籍してきました。6年半前に、事務部で施設・用度を担当せよということ、医療材料・機器・物品の手配や病院の環境を維持管理しておりました。患者さんと直接接する機会は減りましたが、昨年11月の病院新築移転という一大事業に際しては、設計から施工完了まで、新しい医療機器・設備の購入・搬入及び引越や、

入院患者さんの移送までいろいろ担当し、診療や療養環境の改善と言う面で、今までの経験を少しは生かす事ができたかなと思っていたところでした。

この8月から9月にかけて、事務局長拝命とほぼ時を同じくして、民主党による政権交代というこれまでに無い、大きな変革が起こりました。医療界や患者さんにどのような影響が及ぶか予測がしにくいです。良い結果が得られるよう最大限努力していかねばなりません。また、新型インフルエンザの拡大という新たな脅威も身近に迫っています。今後は、病院長のもと、常に患者さんの視点に立ち、職員の協力を得ながら、共に、「患者さんの信頼と満足を得られる病院作り」に、また、「地域医療の充実」に貢献できればとの思いで一杯です。皆様には、宜しくお願い申し上げます。



# ふれあい健康相談開催

患者満足向上委員会 荒木 督隆(リハビリセンター)



10月7日に「ふれあい健康相談」をアピタ松任で開催しました。医師・看護師・薬剤師・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・栄養士・医療相談員がそれぞれ、健康相談・お薬相談・福祉相談・栄養相談・腰痛予防相談・骨密度測定・体脂肪測定・血圧測定・脳の活き活き度測定・体力測定を行いました。

「毎日試してみる」などの返事を頂き、とても嬉しく思いました。中には順番待ちが出るほどのコーナーもあり、笑顔で会話を交わしつつも真剣にアドバイスを受けている様子が印象的でした。特に高齢の方には脳の生き生き度測定や骨密度測定が人気で、高齢化社会といわれる現在において、認知症予防や転倒による骨折の予防に強い関心があり、今後も元気に生活していきたいという意欲を実感しました。

最近の健康ブームや季節の変わり目ということもあり、開店と同時に多くの方が相談や測定のコーナーに立ち寄ってくださいました。私は腰痛予防相談と体力測定の担当をしました。相談にいられた方1人1人の訴えや痛みの出方などの違い、中には家族に腰痛の方がいるなどの相談もありましたが、生活様式や姿勢、腰に負担のかかりやすい動作などに関する注意点、腰を保護するための簡単な運動などを説明すると笑顔で「これからは気を

今回のふれあい健康相談にお越しいただいた方の年齢層は30代、80代と幅広く、合計で100人程にもなりました。まだまだ至らない点があり改善することもありましたが、お越しいただいた方のアンケートでは「全部のコーナーが良かった」や「または是非この催しを行って欲しい」などの意見を頂き、職員一同嬉しく思い、より一層充実させようと思えました。



# アンプス講習会に参加して

リハビリセンター 副技士長 東川 哲朗



秋晴れのシルバーウィーク期間中、作業療法士を対象としたアンプス(AMPS: Assessment of Motor and Process Skills)という評価技能の講習会が当院で開催されました。

このアンプスという評価は、患者さんが日常的に行う作業(調理や洗濯、掃除など)を観察することでその患者さんの遂行能力を把握し、困難となっている動作の改善に役立つ為に行う評価です。

今回の講習会には、中部地区を中心に遠くは福岡からの参加者も含め、当初予定定員を超える35名の参加がありました。定員が少ないのは、その技能習得の為、講師から密に学ぶ必要があるからです。この講習会は人気が高く、全国で400名を超える方が受講待ちしているとのこと。

幸い、地元開催ということを活かして当院からも5名の作業療法士(別に裏方で2名)がこの講習会に参加。連休中5日間、毎朝8時から夕方6時までの講習に挑みました。

この評価技能を利用するために講習会後の試用とデータ提出が必要で、そのデータが正確なものであれば認定評価者となることができます。現在当院には認定評価者が2名在籍しており、今回の講習会を通じ、さらにその人数を増すことが期待されています。

この評価法は、結果を数値化して示すことができ、在宅において二人で生活できるかどうかの判断なども行えます。また、馴染みのある必要な動作を観察しますので、今、困っている事を直ちに改善できる場合もあります。

当院のリハビリセンターでは、常に新しい知見を広げようと各種研修会や講習会に積極的に参加しています。それらで得られた知識・技能で患者さんの早期回復にお役に立っていきなさいと思っております。



## 「耳寄りな講演会」

開催中です。

9月11日に「認知症予防講演会」(北国新聞社後援)を白山市福留南町民センターで開催しました。東川リハビリセンター副技士長が講師を務め、認知症発見に役立つもの忘れチェックや運動、新聞を読む、手紙を書くなどの予防法を紹介しました。

また、9月25日には金沢市二塚会館で熊橋薬局長による「正しい薬の飲み方」という講演会を開催しま

した。参加された方々の中にはお薬の服用について間違った解釈をしてしまったために、薬の期日が来ても数が合わなかった経験をお持ちの方もいらつしました。これからは、かかりつけ医を持つようになり、かかりつけ薬局をお持ちになり、お薬の飲み方に関してわからないことがあればご自分で判断せず相談されることをお勧めします。



## 秋季防火訓練

災害看護チーム

11月9日に新しい病院となつてはじめての夜間想定での防火訓練を行いました。訓練は野々市消防署にご協力いただき、はしご車や放水車を使用し、まさに本番さながらの雰囲気の中で行われました。5階病棟から出火という設定で避難誘導や初期消火を行い、はしご車による救助やトリアージを使用した他院へ

の転送手順の確認などを行いました。訓練終了後、職員に話を聞いたところ、「思ったように動けなかった」「焦ってしまった」といった声をいくつか聞きました。今回の訓練の反省を今後の防災意識の向上に役立てていきたいと思っております。

